

# おこい図書館

No.84

発行  
代表  
青木 和子  
松戸市牧の原1-104-416  
TEL. 0477-37110886

## 浦安図書館へ

行って来ました

深山 能一 市議

平成15年5月11日 20周年を迎えた浦安市立図書館を訪問いたしました。ハード面・ソフト面において、とても充実していると感じました。

ハード面では、20年前の建物とは思えないほどきれいで、心地よく利用できるよう工夫されていて、サービスを行う側と受ける側の楽しさが伝わってくるのが印象的でした。

ソフト面では、日本の図書館の中でトップクラスのサービス実績

をあげ続けてこられたという自負を、館長のお話の中にうかがうことができました。

文化を発信する図書館として、94万冊の蔵書の充実をはかり、専門職としての司書を育成し、情報提供サービスとして、レファレンス、ハンディキャップ、児童、地域行政等へのサービスに力を注いできたとのこと。議員活動へのサポートも業務として行っている事には驚きました。また、新しい動きとして、地元明海大学との連携による、大学図書館の専門的資料の閲覧、インターネットの利用サービス、仕事に必要な情報を的確にナビゲートし、起業や新事業推進の

ための講座開設等、ビジネス支援サービスを展開していくとのこと。です。

生涯学習社会の知的インフラ整備を目指し、市民の暮らしや仕事に役立つ図書館として、今までの枠にとらわれない公立図書館としての果たす役割を、しっかりとしたコンセプトを持って活動している事に頭の下がる思いでした。

松戸市も、松戸市立図書館による「市立中央図書館建設基本構想」が策定されています。この基本構想の中で、松戸の現状分析のもと新しい図書館の姿が描かれ、浦安市立中央図書館と、ハード面、ソフト面で重なる部分が多いような気がしました。一議員として、より良い図書館行政を目指して勉強していきたいと思えます。



# ソフトが大事

……浦安市立図書館の

すばらしさの「ゆえん」

神 淳子

大人のための図書館をコンセプトとして、ニューヨークの図書館にヒントを得て行っているビジネス支援事業は、ご自慢のようでした。が、私は新聞の切り抜き情報を毎日作って行政に流したり、市議会議員のための情報ファイルを作ったりしていることに感心しました。図書館がただ本を貸すところではなく、市民のために情報を提供するところとして動いていることを実感しました。専門職司書の方たちの意欲と能力が生かされていることを感じます。たとえば学校への出張サーブイス（読み聞かせ）年間800回、母語形成期の6ヶ月乳

児母子を対象とする絵本の読み聞かせや、わらべ歌講座など、図書館の可能性の大きさに目を開かされました。

学校の図書館と役割をきちんと分け、児童図書室には評価の定まった良質の本だけを置いておくとのこと。「学校の図書館は授業に役立つものを置くべき」と館長さんが言ったときは、「すごい」と思いました。公共図書館の側から、学校図書館の役割をすばつと言われて大いに共感するとともに、なかなかそうならない現実が脳裏を掠めました。しかし浦安では、教育委員会によって各学校にも司書が配置されていて、市立図書館司書との共同の研修も含め連携が図られているとのこと、うらやましいと思わずにいられませんでした。

41人の正規職員のうち40人が

司書とはいえ、それだけの活動をするには労働力不足ではないかと思いましたが、安易にボランティアに頼らず、ボランティアは文字拡大や録音という裏方として活動しているとのことでした。

うらやましいことづくめですが、そもそもは街づくり構想の中心に図書館を置いた市長が居て、そのため予算を確保し、専門職による運営をしてきたことが、市民のニーズにこたえて発展する浦安市立図書館なのだ、つくづく思ったことでした。



# 百何番目かの図書館訪問

—浦安市立図書館

—という実践と実験—

小林 孝信

「おーい図書館」の活動には以前から参加したいと思っていたがいつも予定が重なって断念していた。今回は、行ってみたい浦安市立図書館が予定に入っており、午前中しか参加できなかったが、期待いっぱいでお出かけた。

参加者は40人くらいと考えていたが、18人、しかも、市会議員の方が5人となかなかのにおわいである。

図書館では館長が応接室に招いてくれる。

日本と世界を旅し、国公立の大学やら研究所やら、100以上の図書館を訪れたと思うが、お茶を出

さん館長の話を聞くのは初体験であった。

常世因館長が、「私、松戸市民なんですか」と自己紹介された時は、思わず微笑んでしまった。今や日本でもっとも先進的で意欲的といわれる図書館の館長さんが、かつては先進的図書館行政、今や改善課題の山をかえる市の住民なのは、なんとも皮肉……。

館長には仕事への自信がのぞくが、過剰な感じではなかった。いろいろな試行をされているだけに、現在の日本の図書館行政がかかえる課題が実に具体的に示された。短時間ではあったが学ぶことが多かった。

私は2つ質問した。

① ビジネスマンらへ業務

サービスが過剰になると本来は企業が負担すべきコストと瞬間が、図書館

に転化されないか？

② 高齢化社会への対応は？

①については「対象はあくまで資料探しで困っている一般市民であって企業ではない。行政はいろいろのメニューを提供するので、それをどうするか決定するのは納税者である」とのこと。

②には「バリアフリー化や宅配サービス、対高齢者担当制などがある。パソコン利用法を伝えて自立も図らす。納税者になってもらうのである。そして、「いずれ、死に方を決めるための情報さえも提供したい」ということだから、すごい。

図書館というのは様々の可能性を持っていてと漠然と思っただけだが、まさに「揺り籠から墓場まで」の世界なのである。

活動を支えるボランティアが200人もいることも驚きで、「市民が図書館を守る」とけ決して大仰な

表現ではないのである。



# 今回の見学会は

参加者は18名で、これまでの見

学会中最多を記録しました。

初めて参加された方が多いこと

に、常世田館長もとても喜んで下

さいました。

午後の松戸市立図書館見学の参

加者は9名でした。

休日の図書館は、どこも来館者

教が多いのに職員の数も少なく

職員の休日確保のためにも忙な  
のですが、浦安も松戸も、私た  
ちのために、時間を割いて下さ  
り、大変感謝しております。

## 松戸市立図書館では

昨年度までの増田館長、司書  
の龍塚さん、長谷川さんが退職  
され、4月から、塚崎館長が、  
就任されました。

見学会には、塚崎館長と司書  
の田口さんが、対応して下さい  
ました。

青木 和子



ふるって  
参加ください!

◎常世田良士さん（浦安市立図書館  
館長）のお話を聞く会

「仕事に役に立つ図書館とは？」

期日 6月21日(土) PM 2:00 ~ 5:00

会場 市民会館 202室

資料代 100円

◎西村 彩枝子さん（江東区立図書  
館館長）のお話を聞く会

「図書館の民間委託について」

期日 7月5日(土) PM 2:00 ~ 5:00

会場 市民会館 202室

資料代 100円

